

# トラギス科魚類ヤマユリトラギス(新称)Parapercis kentingensisの日本における記録

誌名	魚類學雜誌
ISSN	00215090
著者名	松尾, 怜 松沼, 瑞樹 本村, 浩之 木村, 清志
発行元	日本魚學振興會
巻/号	65巻1号
掲載ページ	p. 27-34
発行年月	2018年4月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター  
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council  
Secretariat



# トラギス科魚類ヤマユリトラギス (新称) *Parapercis kentingensis* の日本における記録

松尾 怜<sup>1</sup>・松沼瑞樹<sup>2</sup>・本村浩之<sup>3</sup>・木村清志<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 〒 517-0703 三重県志摩市志摩町和具 4190-172 三重大学大学院生物資源学研究所水産実験所

<sup>2</sup> 〒 780-8520 高知市曙町 2-5-1 高知大学理学部海洋生物学研究室

<sup>3</sup> 〒 890-0065 鹿児島県鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

(2017年7月23日受付; 2017年11月21日改訂; 2017年11月21日受理; 2018年3月23日J-STAGE早期公開)

キーワード: ヤマユリトラギス (新称), トラギス科, 分布, 標本記録

魚類学雑誌  
Japanese Journal of  
Ichthyology

© The Ichthyological Society of Japan 2018

Rei Matsuo, Mizuki Matsunuma, Hiroyuki Motomura and Seishi Kimura\*. 2018. Records of *Parapercis kentingensis* (Perciformes: Pinguipedidae) from Japan. Japan. J. Ichthyol., 65(1): 27-34. DOI: 10.11369/jji.17-036

**Abstract** Two sandperches, *Parapercis kentingensis* Ho, Chang and Shao, 2012 and *Parapercis shaoi* Randall, 2008 (Pinguipedidae), are extremely similar to each other, having overlapping meristic values and eight red-orange bars on the body below the mid-lateral line. Although the species have been considered to co-occur in southern Japan, examination of the single paratype of *P. shaoi* from Amami-oshima Island, Kagoshima Prefecture confirmed its identity as *P. kentingensis*. Because the Amami-oshima Island specimen is the only known example of “*P. shaoi*” from Japan, the Japanese record of that species is now considered erroneous. A description, including morphological variations, of 14 Japanese examples of *P. kentingensis* (including the above paratype of *P. shaoi*) is provided and comparisons made with related species. *Parapercis kentingensis* is distinguishable from other congeners by the following combination of characters: eight brown blotches dorsolaterally on body; dark brown dots (size similar to exposed area of scale) lining lower edge of aforementioned blotches; a large brownish elliptical blotch on upper edge of opercle; an oblique yellow bar fringed with red-orange below eye; one to four small red spots on cheek; three longitudinal rows of small reddish-brown spots on dorsal fin; four or five vertical rows of small red-orange spots on caudal fin; lateral-line scales 52-54; three pairs of canine teeth anteriorly on lower jaw; palatine edentate; a single semi-circular row of stout teeth on vomer; posterior edge of preopercle smooth; upper tip of caudal fin slightly elongated; tip of pelvic fin not reaching to anal-fin origin. Because some Japanese specimens lacked small reddish-orange spots anterior to the pectoral-fin base, that characteristic can no longer be considered diagnostic of *P. kentingensis*.

\*Corresponding author: Fisheries Research Laboratory, Mie University, 4190-172 Wagu, Shima-cho, Shima, Mie 517-0703, Japan (e-mail: kimura-s@bio.mie-u.ac.jp)

トラギス科魚類は7属を含み、日本からはキスジトラギス属 *Kochichthys* Kamohara, 1961, トラギス属 *Parapercis* Bleeker, 1863, およびワニトラギス属 *Ryukyuperpis* Imamura and Yoshino, 2007 の3属が知られている (島田, 2013; Nelson et al., 2016). このうちトラギス属は本科の中で最も種数が多く、これまでに80有効種が認められている (Ho, 2015; Eschmeyer et al., 2017). 日本近海は

トラギス属魚類の種多様性が最も高く、これまでに28種が報告されている (荻原・遠藤, 2011; 日比野ほか, 2013; 島田, 2013; Nakayama et al., 2016).

Kamohara and Yamakawa (1968) は奄美大島から得られた1標本を *Parapercis somaliensis* Schultz, 1968 に同定し, 和名ソマリトラギスを提唱した. その後, 益田ほか (1975) は紀伊半島南西部から

採集された本属標本をソマリトラギスとして報告し、岡村 (1984) もそれを踏襲した。しかし、Kamohara and Yamakawa (1968) で報告された標本は、*Parapercis somaliensis* 種群の分類学的再検討を行った Randall (2008) によって *Parapercis shaoi* Randall, 2008 に同定され、この種のパラタイプとされた。島田 (2013) はこの見解に従い、ソマリトラギスの和名を用いて *P. shaoi* が奄美大島と紀伊半島南西部に分布するとした。Ho et al. (2012) は従来 *P. shaoi* と考えられていた種の分類学的再検討を行い、台湾南部から得られた標本を *P. shaoi* との遺伝的、形態的相違に基づき *Parapercis kentingensis* Ho, Chang and Shao, 2012 として記載した。さらに Ho et al. (2012) は益田ほか (1975) でソマリトラギスとされた種を写真から本種に同定し、*P. kentingensis* が台湾南部と南日本に分布するとした。

今回 Kamohara and Yamakawa (1968) で報告された上述の標本を再調査したところ、この標本は *P. kentingensis* と同定された。したがって日本における *P. shaoi* の記録はなくなる。本報告では Kamohara and Yamakawa (1968) と益田ほか (1975) で使用された標本、および新たに鹿児島県から得られた標本に基づいて、日本産 *P. kentingensis* についての詳細な記載を行った。なお、本種に従来用いられてきたソマリトラギスという和名は本種を *P. somaliensis* に誤同定していたことに由来するものであり、ソマリア沿岸からの報告がない本種に「ソマリ」の名が用いられることによる将来における名称の混乱を避けるため、本研究では本種に対して新標準和名を提唱する。

計数・計測方法は Randall et al. (2008) に従い、測定にはデジタルノギスを用いて 0.01 mm 単位まで測定した。本文中の標準体長には SL の略記を用いた。鱗と鰓耙の計数と歯の観察はサイアニブルーで染色して行った。脊椎骨数の計数には軟 X 線写真を用いた。生時の色彩の記載には生鮮時に撮影されたカラー写真を用いた。本報告に用いた標本は高知大学理学部海洋生物学研究室 (機関略号: BSKU)、京都大学 (FAKU)、三重大学大学院生物資源学研究科附属水産実験所 (FRLM)、鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM)、および台湾国立海洋生物博物館 (NMMB) に保管されている。本報告で参照した写真資料は神奈川県立生命の星・地球博物館の魚類写真資料データベース (KPM-NR) に登録されている。

*Parapercis kentingensis* Ho, Chang and Shao, 2012  
ヤマユリトラギス (新称)  
(Fig. 1 ; Table 1)

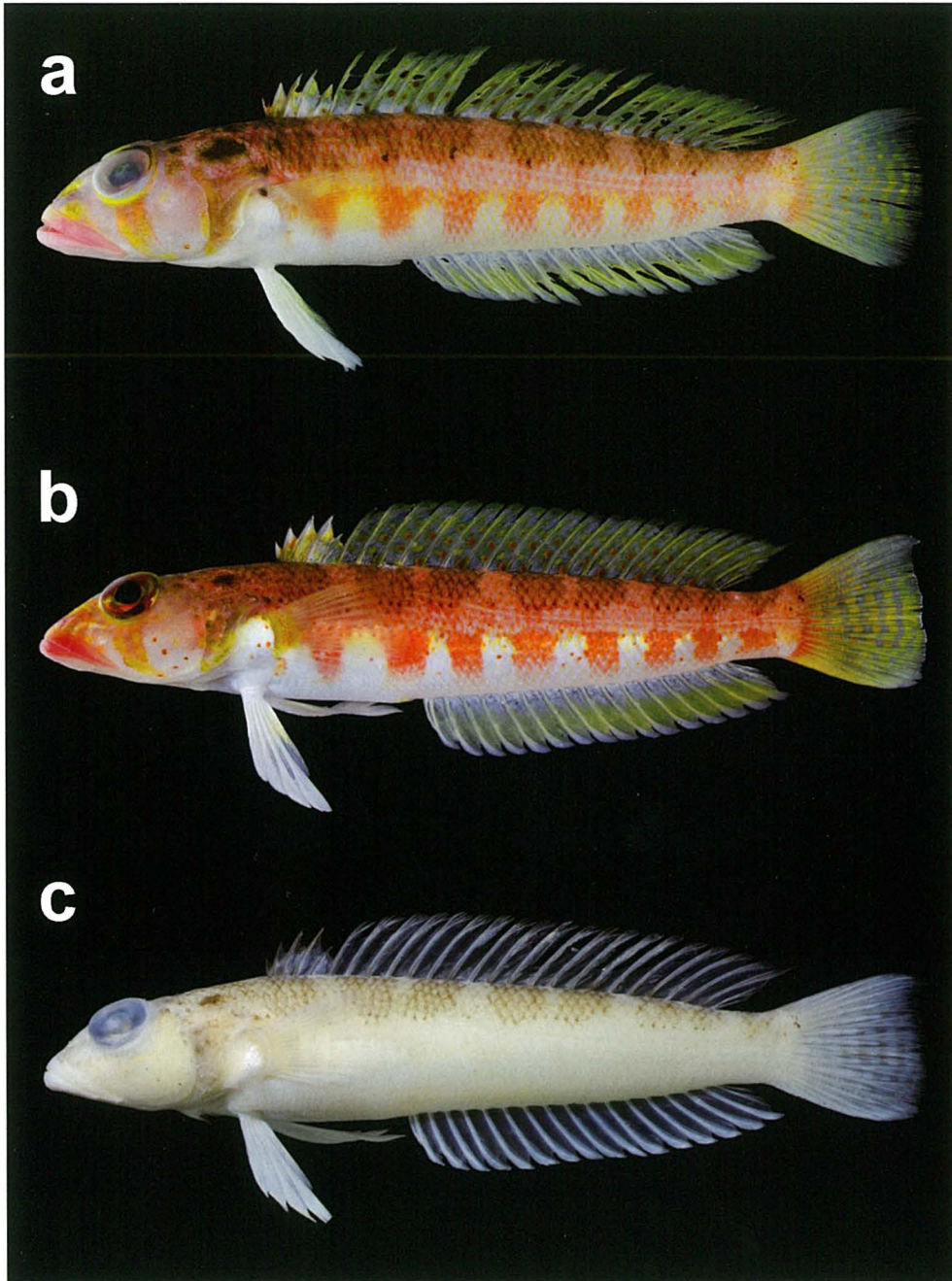
*Parapercis somaliensis* (not of Schultz): Kamohara and Yamakawa, 1968: 15, fig. 6 (Amami-oshima Island, Kagoshima Prefecture, Japan); Masuda et al., 1975: 259, pl. 81-K (Shirahama, Wakayama Prefecture, Japan); Okamura, 1984: 278, pl 261-B (same specimen as Masuda et al., 1975); Shimada, 1993: 941 (north to Kii peninsula, Taiwan, Somaliland); Nakabo, 1995: 262 (same specimen as Masuda et al., 1975).

*Parapercis shaoi* (not of Randall): Randall, 2008: 171, fig. 15 (in part; paratypes, BPBM 40667 and BSKU 91321, reidentified as *Parapercis kentingensis*); Shimada, 2013: 1261 (southeast Kii peninsula, Amami-osima Island, southern Taiwan).

*Parapercis kentingensis* Ho, Chang and Shao, 2012: 164, fig. 1 (type locality: Kenting, Pingtung, southern Taiwan).

**記載標本** BSKU 91321 (Kamohara and Yamakawa, 1968 ; Randall, 2008 に掲載), 151.7 mm SL, 鹿児島県奄美大島古仁屋瀬戸内漁港, 採集者: 山川 武; FAKU 122038 (益田ほか, 1975 ; 岡村, 1984 に掲載), 138.0 mm SL, 和歌山県白浜町瀬戸崎沖, 釣り, 採集者: 荒賀忠一; FAKU 122039–122040 (3 個体), 121.1–132.5 mm SL, 採集データは 22038 と同じ; FRLM 53399, 115.4 mm SL, FRLM 53401, 108.9 mm SL, 鹿児島県大隅諸島口永良部島本村西沖, 水深 80 m, 釣り, 2016 年 8 月 19 日, 採集者: 松尾 怜; KAUM-I. 78688, 133.6 mm SL, KAUM-I. 78689, 114.9 mm SL, KAUM-I. 78690, 116.5 mm SL, 鹿児島県トカラ列島口之島北西沖, 水深 130–150 m, 釣り, 2015 年 8 月 21 日, 採集者: 高山真由美・大黒丸; KAUM-I. 78932, 123.5 mm SL, 鹿児島県トカラ列島中之島東方屋久新曾根, 水深 250 m, 釣り, 2015 年 9 月 22 日, 採集者: 高山真由美; KAUM-I. 87561, 117.4 mm SL, KAUM-I. 87562, 142.0 mm SL, 鹿児島県大隅半島佐多岬沖, 水深 110–120 m, 延縄, 2016 年 5 月 7 日, 採集者: 高山真由美; KAUM-I. 89477, 128.9 mm SL, 屋久島南方沖, 水深 130–170m, 釣り, 2016 年 7 月 26 日, 採集者: 高山真由美・大黒丸。

**識別的特徴** 本種は体背側面に 8 個の褐色鞍状斑があり、その下縁に鱗の露出部とほぼ同大の褐



**Fig. 1.** Fresh (a, b) and preserved (c) specimens of *Parapercis kentingensis* from Japan. (a) KAUM-I. 89477, 128.9 mm SL, Yaku-shima Island, Osumi Islands, Kagoshima Prefecture; (b-c) FRLM 53399, 115.4 mm SL, Kuchierabu-jima Island, Osumi Islands, Kagoshima Prefecture.

色点が連続すること、主鰓蓋骨上縁の褐色斑は楕円形であること、眼下に1本の赤橙色の縁取りのある黄色斜走帯をもつこと、頬に1-4個の赤橙色斑点をもつこと、背鰭軟条部に3列の水平方向に並ぶ赤褐色点があること、尾鰭に4または5本の赤橙色点列横帯があること、側線鱗数が52-54であること、下顎前方に3対の犬歯が並ぶこと、口

蓋骨歯を欠くこと、鋤骨歯は頑強で円弧状に一列に並ぶこと、前鰓蓋骨後縁は円滑であること、尾鰭上葉先端はわずかに伸長すること、腹鰭後端は臀鰭始部に達しないことによって同属他種から区別される (Ho et al., 2012; 本研究)。

**記載** 計数・計測値を Table 1 に示した。体は円筒形で後方へ向かうにつれて側扁する (Fig. 1)。

頭部はやや縦扁する。吻は尖り、下顎先端は上顎先端よりも突出する。口は大きく、主上顎骨後端は瞳孔の中央を通る垂線のわずかに前方にある。上顎の前部には3対の湾曲した犬歯が並び、2対目の犬歯の長さは前後の犬歯のおよそ2倍。上顎には約20本の円錐歯が1列に並び、このうち前方の6または7本は後方に比べてやや大きい。犬歯の後方と円錐歯の内側には絨毛状歯が密に並び歯帯を形成する。下顎の前部には3対の湾曲した犬歯が並び後方に向かうにつれて大きくなる。犬歯の後方には絨毛状歯が密に並び歯帯を形成する。口蓋骨歯を欠く。鋤骨歯は頑強で4-6本が円弧状に1列に並ぶ。舌は幅広く、先端は丸みを帯び、鋤骨歯列の後端に達する。鼻孔は2対で眼の前方に位置し、前鼻孔は短い管状、後鼻孔はスリット状。眼は大きい。眼隔域は平坦。前鰓蓋骨後縁は円滑。主鰓蓋骨後縁中央に1本の鋭い棘がある。側線は鰓蓋上端直後から背鰭第3または第4軟条基底下まで上向き、そこから背鰭第10から第12軟条基底下まで下降し、その後側中線上を直走し尾鰭基底に達する。頭部および体はほぼ全体が櫛鱗に覆われるが、唇、吻、眼隔域、頭部腹面、および眼後部は無鱗。頬部、項部、胸鰭基部、および腹鰭始部の前方は小円鱗に覆われる。尾鰭の前部1/2は小櫛鱗に覆われる。背鰭と臀鰭は無鱗。背鰭は1基で基底が長く、鰭膜で連続する；棘条部は低く、第4棘が最長；軟条部は高く、その高さは棘条部のおよそ2倍、第20軟条が最長。背鰭始部は胸鰭始部直上よりわずかに後方に位置する。臀鰭は基底が長い；棘は細く、その長さは第1軟条の約1/3；第16軟条が最長。臀鰭始部は肛門の直後、背鰭第4または第5軟条基部直下に位置する。尾鰭の上葉先端はわずかに伸長する。胸鰭後縁はやや丸く、その後端は臀鰭第2または第3軟条基部直上に達する。胸鰭の不分枝軟条は最上の1本のみ。腹鰭後端は肛門を大きく越えるが、臀鰭始部には達しない。

**体色** 生鮮時、体背側は淡赤色で側中線より腹側は横帯を除いて白い。吻の先端は黄色を帯びる。唇は淡い桃色。体背側面に8個の褐色鞍状斑が並び、鞍状斑の下縁には鱗の露出部とほぼ同大の濃褐色点が続く。腹側面には8本の赤橙色横帯が並びその間に赤橙色斑点が散在するか、あるいはない。側中線付近はわずかに淡黄色を帯びる。主鰓蓋骨上縁に1個の大きな褐色斑がある。虹彩は赤色、瞳孔はわずかに黄色で縁取られる。眼は黄色で縁取られる。眼の下縁から前鰓蓋骨下縁に

かけて1本の赤橙色に縁取られた黄色の斜走帯がある。頬に1-4個の赤橙色点がある。胸鰭基底前方に1-4個の赤橙色点があるか、あるいはない。背鰭棘は白色、第1-3棘間の鰭膜は淡黄色で部分的に赤橙色を帯びるか、あるいは一様に淡黄色。背鰭第3棘-第1軟条間の鰭膜は淡青色。背鰭軟条部は全体に淡黄色で3または4列の水平方向に並ぶ黄色に縁取られた赤橙色から赤褐色の斑点がある。臀鰭は基底に沿って白色でその下方は淡い黄色を帯びる。尾鰭には黄色と淡青色の細い横帯が交互に並び、4または5列の赤橙色小点が黄色横帯上に並ぶ。胸鰭は淡黄色、あるいは無色透明。胸鰭基底は赤色あるいは黄色。腹鰭は淡黄色で先端が白色、あるいは全体に白色。

10%ホルマリンで固定した後70%エタノールで保存した標本では、体色は一様にくすんだクリーム色。体背側面に8個の褐色鞍状斑が並び、鞍状斑の下縁には鱗の露出部の大きさと同程度の濃褐色点が続く。主鰓蓋骨上縁に大きな濃褐色斑がある。頬に1-4個の濃褐色点がある。背鰭軟条部に3列の水平方向に並ぶ濃褐色斑点がある。尾鰭には5または6本の細い淡褐色横帯が並ぶ。その他の鰭は一様に白色。

**分布** 台湾南部と日本に分布し、国内では相模湾、和歌山県白浜、鹿児島県大隅諸島（口永良部島・屋久島沖・大隅海峡）、トカラ列島口之島、屋久新曾根、および奄美大島から記録されている（Ho et al., 2012；本研究）。

**備考** 本報告で *Parapercis kentingensis* と同定した日本産標本は上記の識別的特徴を有し、本種の原因記載とほぼ一致した。しかし、本研究に用いた日本産標本には、Ho et al. (2012) が挙げた識別的特徴とわずかに相違するものもあった。Ho et al. (2012) は本種の識別的特徴として頬に1-3個の赤橙色斑点をもつことを挙げているが、FAKU 122038 や FRLM 53399 では左の頬に4個の斑点が観察された。しかし右の頬では FAKU 122038 では2個、FRLM 53399 では3個と本種の識別的特徴と一致し、加えてこれらの標本のその他の特徴は *P. kentingensis* の原因記載とよく一致することから、本研究ではこれを種内変異の範疇と判断した。さらに Ho et al. (2012) は本種の識別的特徴として胸鰭基底前方に斑点が散在することを挙げているが、KAUM-I. 78688, 78689, 87561, 87562, および 89477 にはこの斑点がない (Fig. 1c)。標本間の体長差がわずかであっても胸鰭基底前方に斑点をもつ個体 (FRLM 53399, 115.4 mm SL) とも

Table 1. Counts and measurements of *Parapercis kentingensis* and *P. shaoi*

	<i>P. kentingensis</i>		<i>P. shaoi</i>
	Present specimens (Japan; $n = 14$ )	Holotype and paratypes (Taiwan; $n = 16$ )*	Non-types (Taiwan; $n = 4$ )
Standard length (mm)	108.9–151.7	101.4–137.2	125.7–134.2
Counts			
Dorsal-fin rays	V, 21	V, 21	V, 21
Anal-fin rays	I, 17–18	I, 17	I, 17–18
Pectoral-fin rays	16–17	16–18	16–17
Pelvic-fin rays	I, 5	I, 5	I, 5
Principal caudal-fin rays	16–17	17	16–17
Lateral-line scales	52–54	52–54	54–55
Scales above lateral line	6	6	–
Scales above uppermost lateral line	4.5	4.5	–
Scales below lateral line	13–15	13–15	–
Pre-dorsal-fin scales	8–9	8–9	–
Circumpeduncular scales	23–25 ( $n = 13$ )	24–28	–
Gill rakers on upper arch	4–5	4–8	4–5
Gill rakers on lower arch	10–12	10–12	9–10
Vertebrae	10 + 20 ( $n = 13$ )	10 + 20 ( $n = 7$ )	10 + 20
Measurements			
As % of standard length			
Body depth	17.7–22.3	17.5–20.8	19.1–21.9
Body width	13.2–20.2	15.6–21.3	15.9–17.5
Head length	30.1–32.0	27.4–31.8	29.2–32.1
Snout length	9.1–11.2	9.4–11.6	9.2–10.6
Orbit diameter	7.6–8.8	7.7–8.9	7.6–8.3
Interorbital width	3.0–5.4	2.7–4.7	3.5–3.9
Upper-jaw length	12.6–13.4	11.4–14.5	12.3–13.0
Caudal-peduncle depth	8.7–9.8	8.6–9.8	8.3–9.3
Caudal-peduncle length	9.0–11.9	7.6–10.7	10.5–11.9
Pre-dorsal-fin length	29.3–32.9	30.1–32.4	29.7–32.3
Pre-anal-fin length	45.3–51.5	46.5–51.6	47.6–50.8
Pre-pelvic-fin length	26.6–29.3	26.5–32.7	26–29.3
Length of dorsal-fin base	57.5–62.7	57.0–62.7	59.1–61.1
Length of 4th dorsal-fin spine	6.7–8	6.4–9.7	7.0–7.8
Length of longest dorsal-fin soft ray	12.7–15.6 ( $n = 13$ )	12.2–15.5	12.3–13.9
Length of anal-fin base	38.8–44.3	40.5–45.1	40.5–42.4
Length of anal-fin spine	3.2–5.4 ( $n = 13$ )	3.0–6.2	3.7–4.9
Length of longest anal-fin soft ray	10.9–12.7 ( $n = 13$ )	10.9–13.4	11.9–14.2
Caudal-fin length	17.9–21.5 ( $n = 13$ )	16.4–20.8	19.1–21.8
Pectoral-fin length	17.4–20.6 ( $n = 13$ )	18.1–21.9	17.1–18.0
Length of pelvic-fin spine	5–6.4 ( $n = 13$ )	4.7–7.5	4.4–5.7
Pelvic-fin length	18.2–22.3 ( $n = 13$ )	20.0–23.4	21.3–23.5

\*Data from Ho et al. (2012)



たない個体 (KAUM-I. 78689, 114.9 mm SL) が確認されたこと, 斑点をもつ標本 [FRLM 53401 (雌), FRLM 53499 (雄)] ともない標本 [KAUM-I. 87561 (雌), KAUM-I. 78688 (雄)] にそれぞれ雌雄が含まれることから, 胸鰭基底前方の斑点の有無は成長差あるいは雌雄差によるものではなく種内変異である可能性が高いと判断された。

本種は計数形質, 各部位の計測値, 腹側面に8本の赤橙色横帯をもつことなどの点で台湾に分布する *P. shaoi* と最も類似する (Table 1)。しかし, *P. kentingensis* は眼の下縁から前鰓蓋骨下縁にかけて1本の赤橙色に縁取られた黄色の斜走帯をもつこと (大きな赤橙色斑をもつ), 頬に1-4個の赤褐色斑点をもつこと (斑点を欠く), 主鰓蓋骨上縁の褐色斑は楕円形であること (主鰓蓋上の褐色斑はシェブロン型), 背鰭に3または4列の赤橙色から赤褐色の斑点が水平方向に並ぶこと (3または4本の破線状の青色縦帯がある), 体背側の鞍状斑の下縁に連続する褐色斑点の大きさは鱗の露出部と同程度であること (鱗の露出部より大きい), 側中線付近の淡黄色線は不明瞭であること (側中線に沿って明瞭な黄色縦帯がある), 尾鰭に4または5本の赤橙色点列横帯をもつこと (尾鰭に斑点はなく, 黄色と淡青色の細い横帯のみが交互に並ぶ) により区別される (Ho et al., 2012; 本研究)。Ho et al. (2012) は本種と *P. shaoi* との形態上の相違として, 本種の頭部が縦扁し, 吻が尖ることを挙げているが (*P. shaoi* では頭部は縦扁せず吻は尖らない), 本研究の観察ではこのような違いは確認されず, 本種と *P. shaoi* の形態的差異は色彩のみである可能性が示された。また本種はセホシトラギス *Parapercis basimaculata* Randall, Senou and Yoshino, 2008, ホムラトラギス *Parapercis randalli* Ho and Shao, 2010, および *Parapercis rubromacurata* Ho, Chang and Shao, 2012 ととも類似するが, 本種では尾鰭に4または5本の赤橙色点列横帯をもつこと (セホシトラギスでは4個の, ホムラトラギスでは2個の黒色斑をもち, *P. rubromacurata* では尾鰭全体に多数の赤色斑点をもつ), 頬に1-4個の赤橙色斑点をもつこと (小斑点を欠く) により区別される。

相模湾で撮影されソマリトラギス *P. somaliensis* と同定された個体 (KPM-NR 75234) は, 眼の下縁から前鰓蓋骨下縁に1本の赤橙色に縁取られた黄色の斜走帯をもつこと, 頬に3個の斑点をもつこと, 体背側の鞍状斑の下縁に連続する褐色斑点の大きさは鱗の露出部と同程度であることなどが

ら *P. kentingensis* である。したがって本報告では本種の分布に相模湾を含めた。また, 産地は不明であるが小西 (2011) がソマリトラギスとして掲載した個体もその色彩的特徴から *P. kentingensis* に同定される。

Ho et al. (2012) は *P. shaoi* のタイプシリーズを再調査し, パラタイプのうち1個体 (BPBM 40667) を *P. kentingensis* に再同定したが, BSKU 91321 については言及しなかった。なお, Ho et al. (2012) は両種が台湾南部と南日本に同所的に分布すると報告している。本研究で BSKU 91321 を再調査したところ, この標本は主鰓蓋上部の褐色斑が楕円形であること, 体背側の鞍状斑の下縁に連続する褐色斑点の大きさは鱗の露出部と同程度であること, 背鰭軟条部に3本の黒点列があることから *P. shaoi* ではなく, *P. kentingensis* に同定された。これまで *P. shaoi* として報告された標本は BSKU 91321 のみであったため, *P. shaoi* は未だ日本からは記録がないことになる。

なお, 益田ほか (1975) に使用された FAKU 122038, および FAKU 122038 と同時に採集された3標本 (FAKU 122039, 122040, 122041) は10%ホルマリンに長期間保存されていたため体色のほとんどが失われていた。しかし, FAKU 122038 は生鮮時に撮影されたカラー写真の特徴 (眼の下縁から前鰓蓋骨下縁に赤橙色に縁取られた黄色の斜走帯をもつこと, 頬に4個の斑点をもつこと, 体背側の鞍状斑の下縁に連続する褐色斑点の大きさは鱗の露出部と同程度であること) に基づき, *P. kentingensis* に同定された。また, FAKU 122039-122041 についても主鰓蓋骨上縁の褐色斑が楕円形であること, 背鰭軟条部に水平方向に並ぶ褐色斑点をもつこと, 体背側に並ぶ褐色斑点の大きさは鱗の露出部と同程度であることから, 本種に同定された。

**新標準和名の提唱** 前述のように本種標本は当初 *Parapercis somaliensis* に同定され, この種小名から和名ソマリトラギスが提唱された。しかし, 本種はソマリア沿岸に分布せず, 本種の和名としてソマリトラギスを用いることは将来における名称の混乱を引き起こす可能性がある。そこで本報告において和名の安定性を担保するため, 本種に対して新標準和名ヤマユリトラギスを提唱する。なお本種の新標準和名は本種の識別的特徴である頬に散在する赤褐色点ユリ科植物のヤマユリの花を連想させることに由来する。

**比較標本** *Parapercis shaoi* (恒春鎮市場, 台湾南部): NMMB-P 11449, 127.0 mm SL, 2010年10月

10日; NMMB-P 14452, 125.7 mm SL, 2010年10月4日; NMMB-P 11460, 125.7 mm SL, 2010年10月11日; NMMB-P 11465, 134.2 mm SL, 2010年9月27日.

## 謝 辞

本研究を行うにあたり京都大学フィールド科学教育研究センター舞鶴水産実験所の甲斐嘉晃博士には記載標本の、台湾国立海洋生物博物館のHsuan-Ching Ho博士には比較標本の借用についてご協力いただいた。神奈川県立生命の星地球博物館の瀬能 宏博士と元京都大学の荒賀忠一氏の両氏には紀伊半島のソマリトラギスとされた標本の写真を提供していただいた。西之表市の高山真由美氏、大黒丸船長の中川輝幸氏ならびに乗組員の皆様、種子島漁業協同組合の皆様には貴重な標本を採集・寄贈していただいた。峯苦 健氏をはじめとする鹿児島県口永良部島の漁業組合の方々、大阪府立環境農林水産総合研究所の木村祐貴博士、広島大学大学院水圏資源生物学研究室の学生諸氏、台湾国立海洋生物博物館の小枝圭太博士、鹿児島大学総合研究博物館魚類分類学研究室の稲葉智樹氏、宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センターの三木涼平氏、宮崎大学農学部海洋生物環境学科の和田英敏氏には標本の採集に際し多大なご協力いただいた。九州大学大学院農学研究院資源生物科学部門の日比野友亮博士、鹿児島大学総合研究博物館魚類分類学研究室の学生諸氏ならびに同博物館ボランティアの皆様には標本の採集および作成にご協力いただいた。これらの方々に対し心より御礼申し上げる。鹿児島県産の標本は、JSPS 科 研 費 (19770067, 23580259, 24370041, 26241027, 26450265), 国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」、文部科学省特別経費「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点整備」、および鹿児島大学重点領域研究環境(生物多様性プロジェクト)学長裁量経費「奄美群島における生態系保全研究の推進」の援助を受けて採集された。

## 引用文献

- Bleeker, P. 1863. Onzième notice sur la faune ichthyologique de l'île de Ternate. *Nederlandsch Tijdschrift voor de Dierkunde*, 1: 228–238.
- Eschmeyer, W. N., R. Fricke and R. van der Laan (eds). 2017. Catalog of fishes: genera, species, references: <http://researcharchive.calacademy.org/research/ichthyology/catalog/fishcatmain.asp> (参照 2017-2-27)
- 日比野友亮・本村浩之・木村清志. 2013. 鹿児島県と論島から得られた日本初記録のホムラトラギス(新称) *Parapercis randalli*. 魚類学雑誌, 60: 129–134.
- Ho, H.-C. 2015. Description of a new species and redescriptions of two rare species of *Parapercis* (Perciformes: Pinguipedidae) from the tropical Pacific Ocean. *Zootaxa*, 3999: 255–271.
- Ho, H.-C., C.-H. Chang and K.-T. Shao. 2012. Two new sandperches (Perciformes: Pinguipedidae: *Parapercis*) from South China Sea, based on morphology and DNA barcoding. *Raffles Bull. Zool.*, 60: 163–172.
- Ho, H.-C. and K.-T. Shao. 2010. *Parapercis randalli*, a new sandperch (Pisces: Pinguipedidae) from southern Taiwan. *Zootaxa*, 2690: 59–67.
- Imamura, H. and T. Yoshino. 2007. *Ryukyuperis*, a new genus of pinguipedid fish for the species *Parapercis gushikeni* (Teleostei: Perciformes) based on the phylogenetic relationship of the family. *Raffles Bull. Zool.*, Suppl., (14): 93–100.
- Kamohara, T. 1961. Additional records of marine fishes from Kochi Prefecture, Japan, including one new genus of the parapercid. *Rep. Usa Mar. Biol. Stat.*, 8: 1–9.
- Kamohara, T. and T. Yamakawa. 1968. Additional records of marine fishes from Amami. *Rep. Usa Mar. Biol. Stat.*, 15: 1–25.
- 小西英人. 2011. 釣魚 1400 種図鑑 海水魚・淡水魚完全見分けガイド. エンターブレイン, 東京. 541 pp.
- 益田 一・荒賀忠一・吉野哲夫. 1975. 魚類図鑑 南日本の沿岸魚. 東海大学出版会, 東京. 379 pp.
- 中坊徹次. 1995. トラギス科. 新さかな大図鑑. 週刊釣りサンデー, 大阪. 559 pp.
- Nakayama, N., T. Ohkawa and H. Endo. 2016. First record of rare sandperch, *Parapercis fuscolineata*, from southern Japan (Actinopterygii: Perciformes: Pinguipedidae). *Spec. Divers.*, 21: 85–90.
- Nelson, J. S., T. C. Grande, and M. V. H. Wilson. 2016. *Fishes of the World*. Fifth edition. John Wiley and Sons, Hoboken, New Jersey. xli+707 pp.
- 岡村 収. 1984. ソマリトラギス *Parapercis somaliensis* Schultz. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫(編), p. 279, pl. 261B. 日本産魚類大図鑑. 東海大学出版会, 東京.
- 荻原豪太・遠藤広光. 2011. 鹿児島県志布志沖から得られたアマノガワクラカケトラギス(新称) *Parapercis lutevittata* (ワニギス亜目: トラギス科) の記録. 日本生物地理学会会報, 66: 261–264.
- Randall, J. E. 2008. Six new sandperches of the genus *Parapercis* from the western Pacific, with description of a neotype for *P. maculata* (Bloch and Schneider). *Raffles*



- Bull. Zool., Suppl., (19): 159–178.
- Randall, J. E., H. Senou and T. Yoshino. 2008. Three new pinguipedid fishes of the genus *Parapercis* from Japan. Bull. Natl. Mus. Nat. Sci. (Ser. A), Suppl., (2): 69–84.
- Schultz, L. P. 1968. Four new fishes of the genus *Parapercis* with notes on other species from Indo-Pacific area (family Mugiloididae). Proc. U. S. Natl. Mus., 124(3636): 1–16.
- 島田和彦. 1993. トラギス科. 中坊徹次 (編), pp. 938–943, 1350–1351. 日本産魚類検索 全種の同定. 東海大学出版会, 東京.
- 島田和彦. 2013. トラギス科. 中坊徹次 (編), pp. 1258–1264, 2088–2091. 日本産魚類検索 全種の同定. 第三版. 東海大学出版会, 秦野.